

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0017 名古屋市中区松原 1-17-6 朝日軒ビル3階

HD ニュース

No. 47
2017. 4. 15

今後の予定／於：事務所会議室

5月4日(木)18:30～ 三役会

5月16日(火)18:00～マンション・ビル大規模修繕研究会

5月16日(火)19:00～ 研修会

5月18日(木)18:30～ 木造技術研究会

事務所は移転しました。新住所：左記参照

電話：052-684-4162 FAX:052-684-4164

新耐震住宅の構造強度

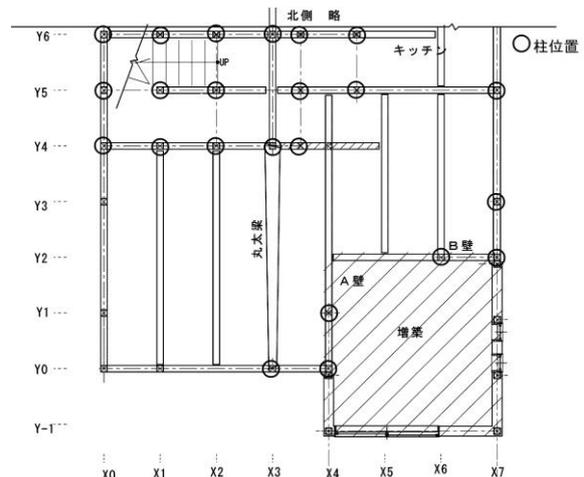
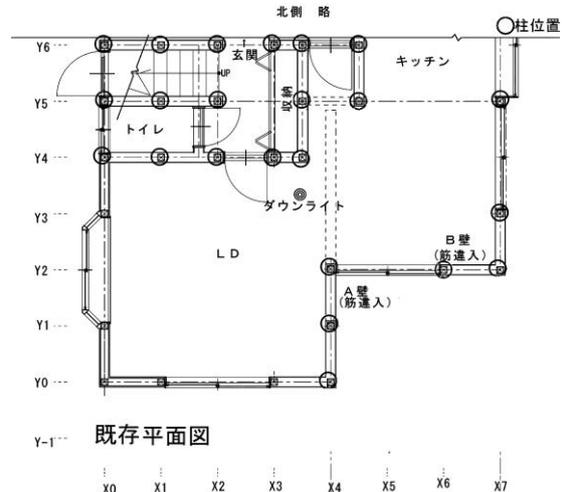
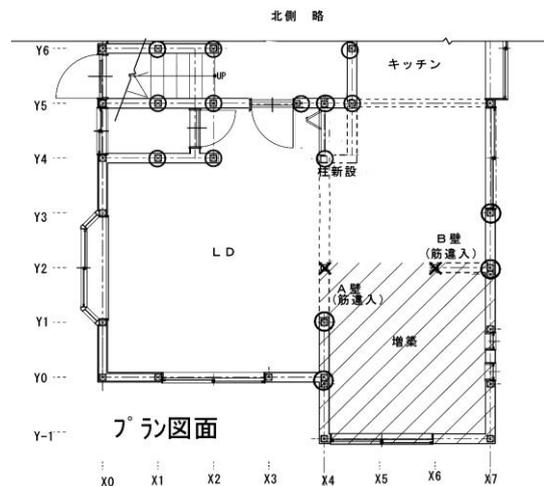
副理事長 渋谷道子

リフォームの仕事をしていると、この壁は取れるか、取れないかという話になってくる。施主へは「今の耐震の考え方は、筋違が数あれば良いというのではなく、耐力壁の位置のバランスが大事なので、筋違がいくら必要な数があってもバランスが悪いと、その強さを割り引いて判断することになっていること、今ある筋かいを取ったらどこかに移動することではなくて、家全体として判断しましょう。」という事を説明して進めている。

ところが、先日のリフォームの家は平成6年度の建物にも関わらず耐力壁の量とバランスでは全く評価の出来ない構造だった。

東南側に4.5帖のダイニングルームを増築する計画だった。問題はAとBの壁が取れないかということだ。B壁は新しく造る壁が一体化出来れば、今は出隅だが無くなっても大した負担はかからないだろう。A壁は近くにあった天井のダウンライトを外してのぞいてみたら、X4通りには梁せい240の梁が少なくともY1通りからY5通りあたりまで伸びているのが確認出来た。ちょっと長いのが気になるが、基礎を作って(X4-Y4)へ新しく柱を設けスパンは変えない様にすれば良いだろう。LD入口のごちゃごちゃした収納は取って広くしてトイレは移動して収納にする。その横をLDの入り口にするプラン。

解体してみると、南北に延びる中心となる丸太梁(2階床組み!)がX3通りにあり、Y4通りでX3からX5に掛かる梁がX4通りの梁を支えており、その梁が取り付けられている所で丸太が角材の梁に切り替わっていた。全くノーマークだった廊下収納廻りが、構造のコアだった。その柱は1本も取らずに完成させた。



第5回 HD 研修旅行記（1）秋野不矩美術館・ねむの木こども美術館 藤井千保子

藤森照信氏の設計、一つ目は「秋野不矩美術館」。アプローチ部分の電柱・側溝のフタ・手摺りなどはすべて木で作られていて、コンクリートの擁壁も杉板で隠されていました。外壁にはワラの混じったモルタルが塗られ、ザラザラとしている部分と杉板が張られ、ツルツルしている部分とで印象の違う仕上げが組み合わさっていました。

内部に入ると靴を脱いで作品を鑑賞するようになっていて、一つ目の部屋の床には籐ごしが敷かれ見た目にも足触りにも暖かい印象があり、二つ目の部屋はピンクがかかった白大理石で見た目は冷たい印象がありながらもひやっと冷たいわけでもない不思議な感覚がありました。

対照的な床材とは逆に壁はワラの混じった漆喰で統一されていて、また、階段や2階は全く違う印象で壁はコンクリートで杉板の型枠あとの残るような仕上げとなっていました。しかし床にはワラの混じったモルタルが塗られ、共通性が持たされています。

異なる印象を与えながら、共通するものを持たせてまとめている建築物なのかなと感じました。

二つ目は「ねむの木こども美術館」。ジブリに出てきそうな可愛らしい建物です。山際の斜面から飛び

出して来たかのような配置で、どんぐり部分が印象的。このどんぐり部分の構造が気になったので調べてみると、銅板瓦棒葺の上に木造でシェルをつくりその上に「手もみ銅板」を葺いているようです。この「手もみ」作業はこどもたちと職員で行ったそうです。外壁はワラの混じったモルタルが塗られ、トイも同材で塗って目立たないようにしていました。

外壁には可愛らしい絵が描かれていますが、これはこどもたちによって描かれたもので「稲穂」をイメージしたものだそうです。

屋根部には芝棟があり、さん木で土が崩れないようにしているのではと皆さんが予想されていたので調べましたが「土が崩れないように草を植えた」ということしか分かりませんでした。

2階の美術館へ行くにはわざわざ一度外に出てぐるりと回らなければならない、その際に建物外観と自然を楽しめるようなアプローチになっていました。全体的にアールが多く、優しい印象のある建築物だと感じました。

自然の中で自然素材を多く使いながらも紛れることなく主張してくるようなメッセージ性のある2つの建築物だと思いました。



秋野不矩美術館



ねむの木こども美術館

撮影：谷川照雄